

事業報告書

工組・支部名 : 北海道電気工事業工業組合青年部 札幌支部
札幌電気工事業協同組合青年部 企画委員会

資料提出日 : 平成30年5月7日

1. 【事業名】

教育機関連携事業 北海道札幌琴似工業高等学校 生徒保護者様向け業界説明会

2. 【実施日時】

平成30年4月25日(水) 11:30~12:50

3. 【実施場所】

北海道札幌琴似工業高等学校 (札幌市西区発寒12条11丁目3番1号)

4. 【提言書2016との適合性】本事業に当てはまる項目番号と提言書ページ数をご記入ください

- ①人材育成と後継者育成 (P. 5~) ②組合員の経営安定化の支援 (P. 12~)
③技術・施工品質の向上と経営能力の向上 (P. 16~)
④その他 ()

◎項目番号 : ①

◎提言書ページ : 5~

5. 【事業目的】

教育機関との連携事業として、昨年度も開催した保護者向け業界説明会。学校側・保護者から多くの良い反響を頂き、今年度も是非開催してほしいという強い要望を頂きました。更には、保護者側からは開催時間を長くしてほしいという意見もあり、我々電気業界に対しての多くの期待感があるのを感じとる事ができます。開催当日は、保護者向けに電気工事業界PR・座談会を計画し、事業継続の必要性や有効なPRの機会と捉え、保護者の傾向を掴むと共に、PR方法や説明スキルの向上にも意識しながら進めていく事を目的とします。

6. 【事業内容】

- ① 業界説明会 (15分)
開催資料をもとに、パワーポイントで説明。
- ② 座談会 (55分)
各班5つのテーブルに分かれて実施 (各テーブル青年部2~3名・保護者3~4名)
業界に対しての保護者からの質問事項
(業務内容・取得資格・今後の業界についてなど)

7. 【参加員数】

1. 青年部：15名
2. 保護者：（電気科1年～3年生）18名
3. 事業視察
札幌電気工事業協同組合本部理事 2名
釧根電気工業協同組合理事長 1名
苫小牧電気工事業協同組合青年部 3名

8. 【外部協力者】

- 報道関係者 1名

9. 【事業総額】 別紙、事業決算書参照

10. 【事業の成果】

近年、建設業界全体では、就業者数のうち約3割が55歳以上である一方、29歳以下は約1割であり、全産業において高齢化が急速なペースで進んでいます。この為、将来にわたる担い手不足が強く懸念され、処遇改善や教育方法の充実・強化等の対応が急務となっています。

生徒保護者様向け業界説明会は、過去2度開催し学校様や保護者様からの注目度が高く、親組合理事や道工組の方からも事業視察があったことで、いつもとは違った緊張感の中で3回目の開催となりました。生徒さんが今後就職活動をしていくうえで、多大な影響力のある保護者様に対して私達の電気工事業界は将来性があり、ライフラインには絶対に欠かす事ができない業種であるという事をPRし、座談会においては保護者様からの様々な質問（待遇・取得資格・電気業界の将来性）が飛び交い、電気工事業界に対して多くの理解を得る事ができました。

又、保護者様からは、「直接工事会社の方とお話ができて良かった」「不安な事が解消された」「年に一度の開催ではもったいない」など多くのお言葉を頂戴しました。今後の事業において、保護者様からの貴重な意見を反映させ、更に充実した説明会の開催や電気工事業界の魅力を伝え、人材確保や育成、業界発展の為に継続していく事業と強く思います。

11. 【反省点または工夫した点】

1. 電気業界説明会（PR）
保護者様が会場入りする前までの間、青年部員同士がざわついてしまっていた点があり、控室において待機するべきでした。
又、業界PRで使用したパワーポイントは、保護者様に対して解りやすく内容を改善していく必要性を感じました。
2. 座談会
保護者様からの質問事項を想定して、回答例を準備しておくスムーズに座談会が進めていけたような気がした点や、開催時間をもう少し長くしても良いのでは無いかと感じました。保護者様との座談会という貴重な経験や時間を設ける事ができたのは、今後に繋がる大きな成果を得る事が出来たと思います。

12. 【別添資料（写真・動画等）】

1. 北海道建設新聞社（掲載記事）

電気工事業の魅力発信
 札幌電気工事業協同組合青年部（安藤慎也部長）は4月25日、札幌琴似工高で保護者説明会を開いた。日々の仕事など疑問に答え、インフラを支える地域の電気工事業の役割や仕事の魅力を伝えた。

ことしで3回目。少子化で人材確保の競争が激しくなる中、生徒の進路決定に影響力が大きい保護者に、業界を知ってもらうことが狙い。電気科1〜3年生の親など25人が参加した。

電気工事業の置かれた環境、仕事の内容、仕事に必要な資格や技術者の一日の動きを紹介。その後、「休みはしっかり取れるのか」「先輩などとの人間関係は」など保護者の疑問に、青年部員が丁寧に答えた。

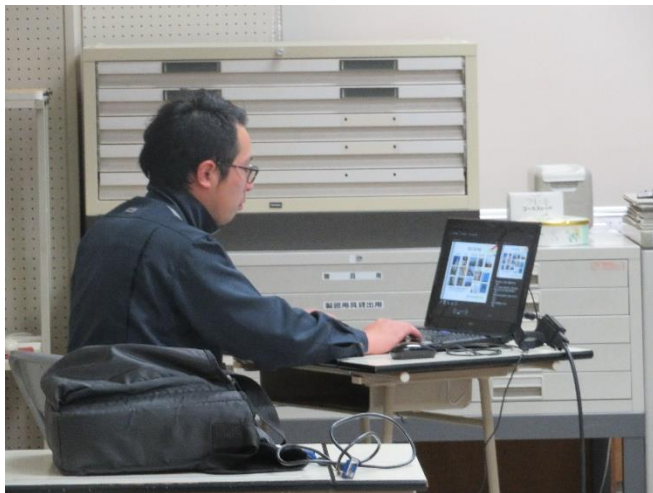
同高の目下剛電気学科長は「道内に就職先を求める生徒が増える中、保護者からは好評を得ている」と話し、引き続き青年部の協力で、内容を充実させていく考えだ。

若手不足という課題が広がる中、取り組みの関心が高まり、この日は苫小牧地区の青年部、釧路地区の幹部が視察に訪れた。安藤部長は「3年目を迎え、各社の入職に結び付いているかの検証を進め、今後役に立てたい」と話していた。

保護者の疑問に青年部員が答えた



2. 電気工事業界PR風景



3. 座談会風景

